

13 鈴木晒整理株式会社

高効率洗浄装置の活用による製品品質の向上と新たな感性価値の提供



展示会への出展風景



鈴木希昌 代表取締役

会社概要

- 社 名：鈴木晒整理株式会社
- 代 表 者 名：代表取締役 鈴木希昌
- 所 在 地：〒430-0903
浜松市中区助信町43番地の11号
- 取 材 地：同所在地
- 設 立 年 月：昭和33年1月
- 業 種：繊維工業、染色整理業
- 資 本 金：10,000千円
- T E L：053-471-0241
- U R L：<https://suzukisarashi.co.jp/>



取り組みの経緯

【海外ブランドも認めた品質 その安定的な供給体制へ】

染色整理業の同社は、下晒し(毛焼・糊拔・精練・晒・シルケット加工)工程から、染色、整理加工までを手掛けている。同社の強みは、独自の染色加工技術による他社にはない高級感、光沢、艶、ドレープ等の風合いや肌ざわり等であり、アパレル製品の審美性等の価値創造にも繋がる重要度の高い技術である。

こうした技術力と高い製品品質が評価され、特に天然繊維の綿織物の染色加工技術への評価は高く、海外トップブランド向けの生地染色加工も多く取り扱っている。

その一方で、高級アパレルは品質への要求は非常に高く、些細な染色の違いやムラも許されず、加工直しの増加や不上がり(C反)処分等が発生している。今後は、不上がりや修正加工を減少させて、良品(A反)率を高め、トレンドが目まぐるしく変化するアパレル市場の中でリピート需要を高めていくことが求められる。

また、海外市場では、生地の品質安全のグローバル基準としてPH値が定められており、数値7(中性)程度に保つため、PH値を低下させることが必須となっている。

事業の概要

最新モデルの高効率洗浄装置を導入することで、染色加工の基盤となる精練加工の生地の均一化及び効率化による品質向上を図り、良品（A反）率を高めるとともに、ユーザーの求める高い感性価値の染色加工技術の実現に取り組んだ。

取り組みの内容



導入した高効率洗浄装置

【ボトルネックの解消と 世界基準の生地づくり】

下晒しは、染色加工工程の中でも織物の仕上がりの良し悪しを左右する重要な工程である。特に、精練加工にて生地に付着した油脂分や汚れを除去することで、次工程の付加価値の高い染色加工が実現できる。

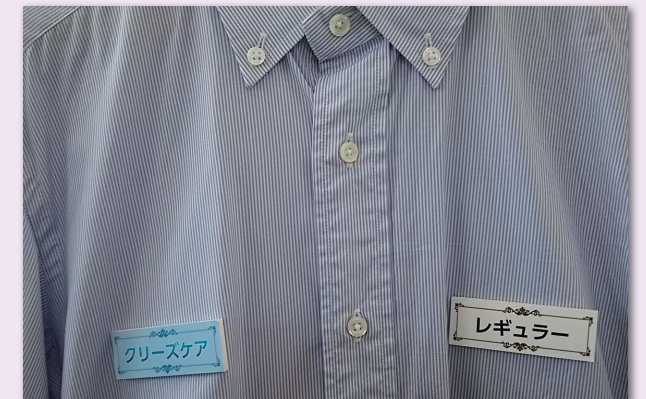
しかし、現行設備は洗浄効率が悪く、高品質な染色加工を施すための完璧な洗浄ができていなかった。

また、普通巾生地に対応した現行設備は、安定的に精練加工できる生地巾は制限され、基礎加工段階でシワ等の不具合が発生していた。近年はストレッチ素材等の伸縮性のある広巾生地の需要が高まっているが、現行設備では安定した加工品質が出せない状況にあった。

さらに、海外市場における生地の品質安全基準であるPH値7程度の維持には、洗浄精度の向上が有効であるが、現行設備では対応が困難となっていた。

そこで、①洗浄精度向上と稼働領域拡大による良品率の向上、②基礎工程の整備による染色加工のさらなる品質向上、③グローバル基準に合致したPH値の低減を目指し、染色加工工程のボトルネックである下晒し工程、中でも精練工程の改善を図るため、最新モデルの高効率洗浄装置を導入した。

結 果



左側素材が自社開発の防止シワ加工「クリーズケア」

【産地の隆盛も視野に入れた ジャパंकオリティの提供】

高効率洗浄装置の導入により、布への浸水性の改善、シワの発生抑制、生地の均一性の向上等、精練加工の精度が飛躍的に高まり、良品率が現行の96.7%から98.0%に向上した。この結果として、加工不良に伴う精練直しやシワ直し、外注修正が大幅に低減し、買取処分を含めて対応コストの削減が図られた。

また、高効率洗浄により洗浄効果が高まって、生地のPH値を厚地では10から8.5に、薄地で9から7.5に低減でき、世界的な安全基準をクリアできた。

多品種小ロットの海外高級アパレルの最近のニーズは、天然繊維素材の持ち味を活かした上質なナチュラル感であり、ジャパंकオリティへの関心も高まっている。今回の取り組みによって、高い製品品質を安定的かつ低コストで提供できる環境が整備された。同社が長年こだわり培ってきた職人技術による繊細な加工と、加工技術の開発力を一層強化することで市場拡大を目指す。

遠州産地は糸や織、染色整理等、高度に分業化が進む繊維の街である。同社の売上拡大は、分業により形成された関連事業者への経済波及効果をもたらし、産地全体の業績拡大にも貢献する。